



好古圖彙

三

15
1485
3



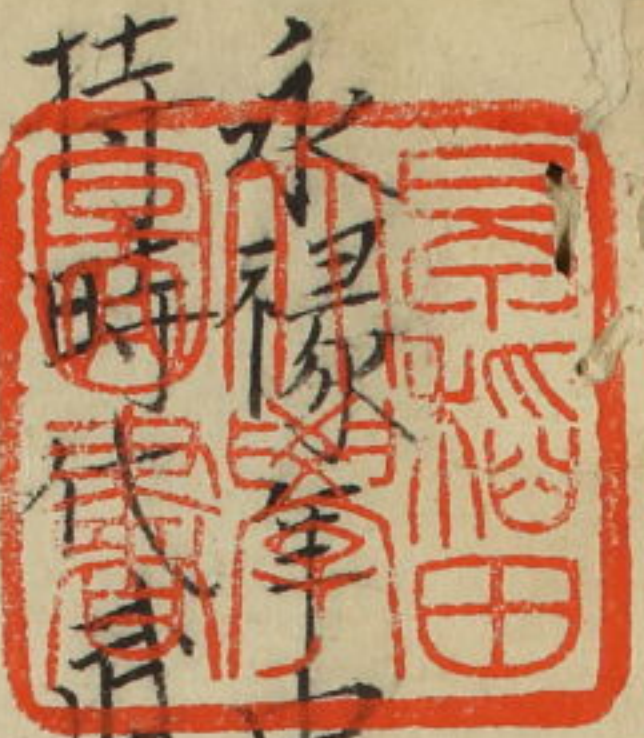
1185
3

11
A

新加坡大學圖書館
1955年10月5日
借出

門 415
號 1485
卷 3

神田大學圖書館
昭 34.9.15 受
藏 書

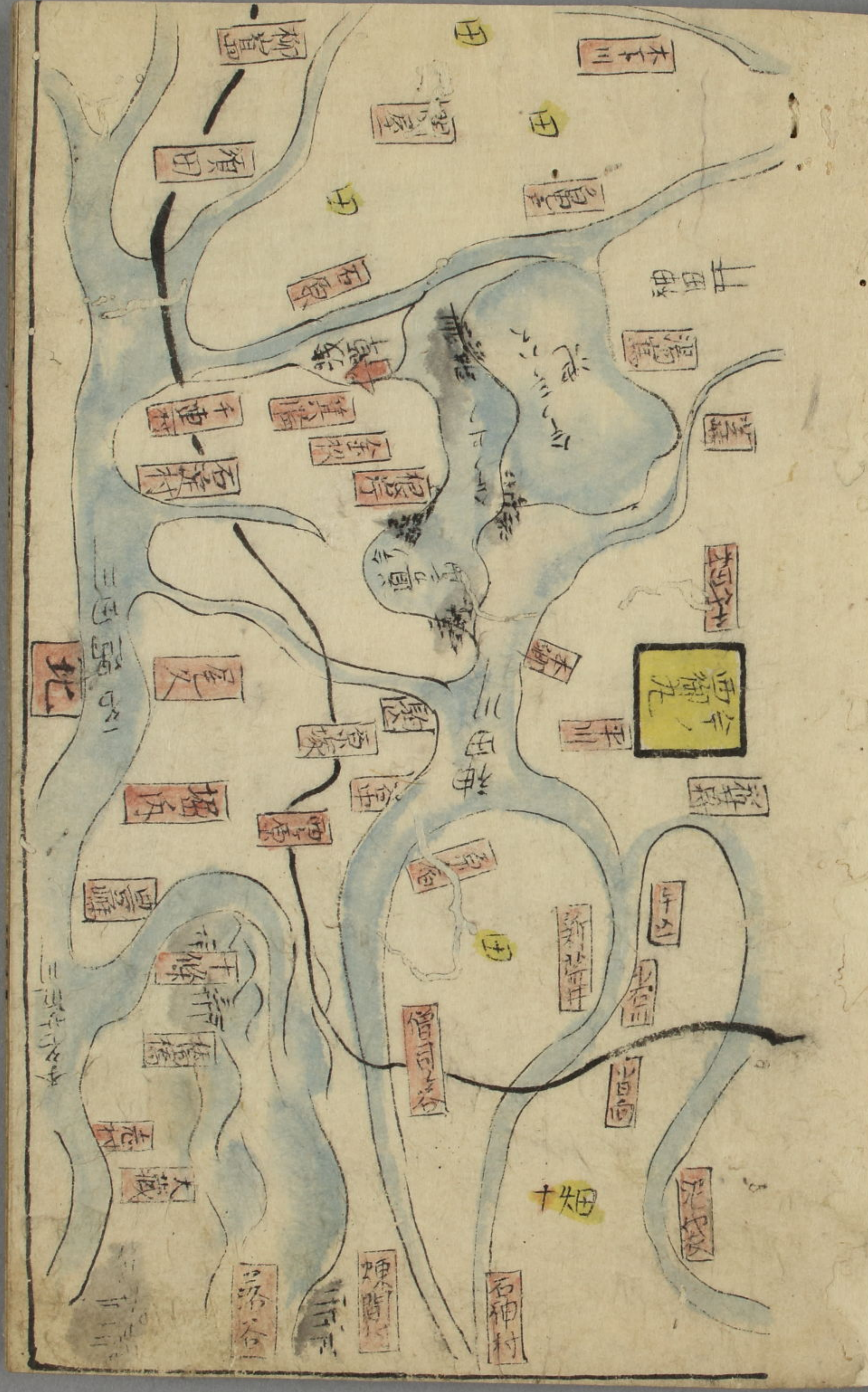


永祿年中相勅小由原城至北條左京奈平氏康
持時畫出而豐島郡峽田領江戸繪圖

明公從一照東方赫々武威斯地藏河
伯陶砂獻仁風無限滿杖桑

文化改元甲子仲秋上旬石孝子安祥書

于時文政九丙戌初夏上旬自本郷某送是
成其古書事大感日出祝松濤亭秀高
写之又同氣好事諸君子一見乞百已

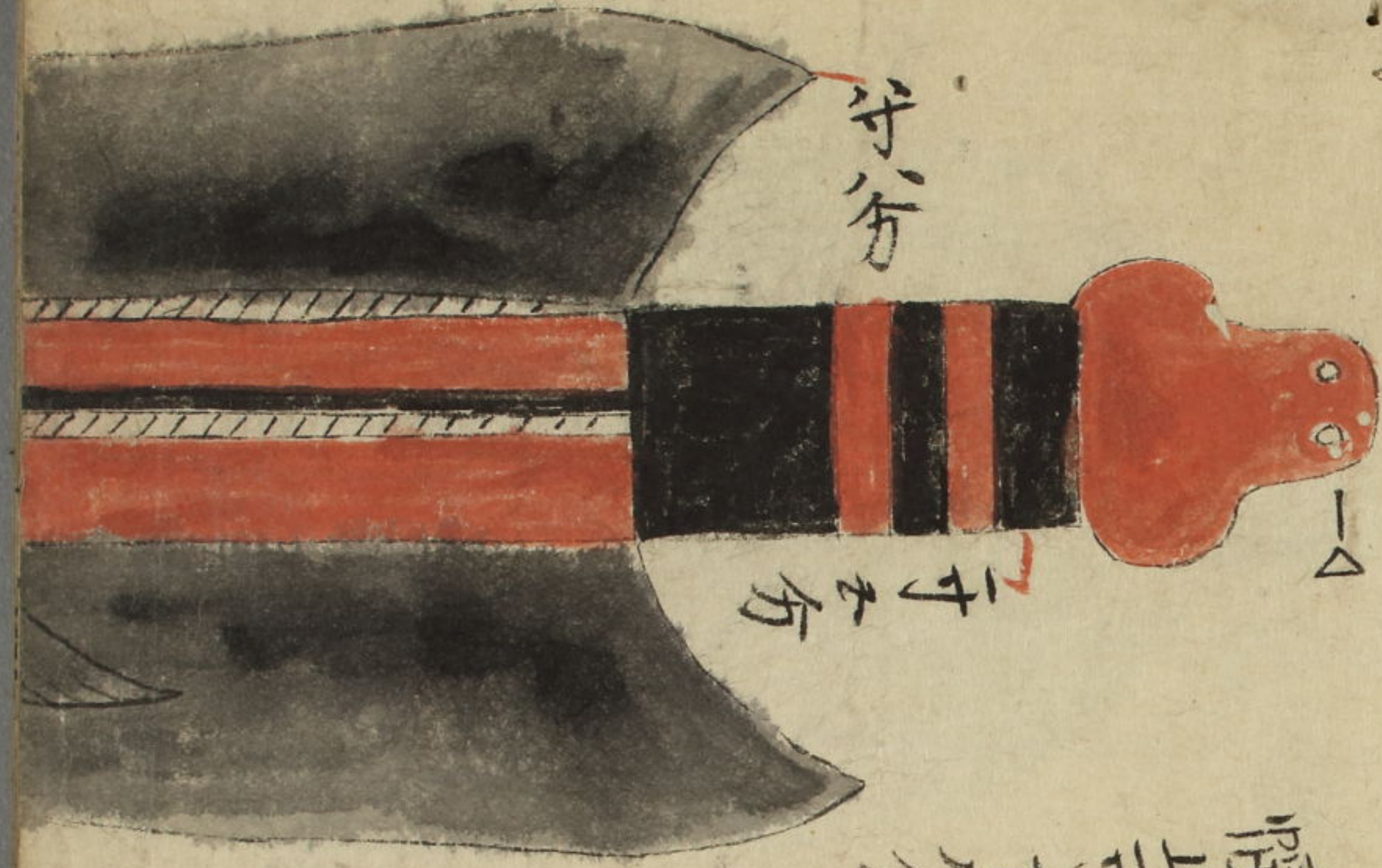


△ 笠子馬首 妙三皇社 笠子馬首
 ○ 笠子馬首 用此の形



0-0

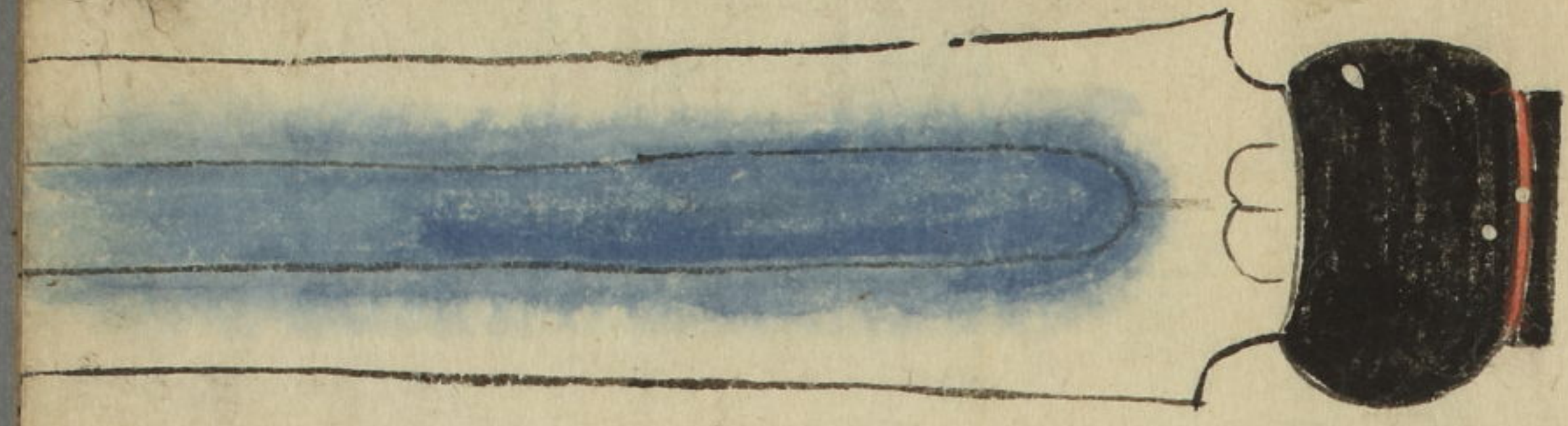
羽
 笠子馬首



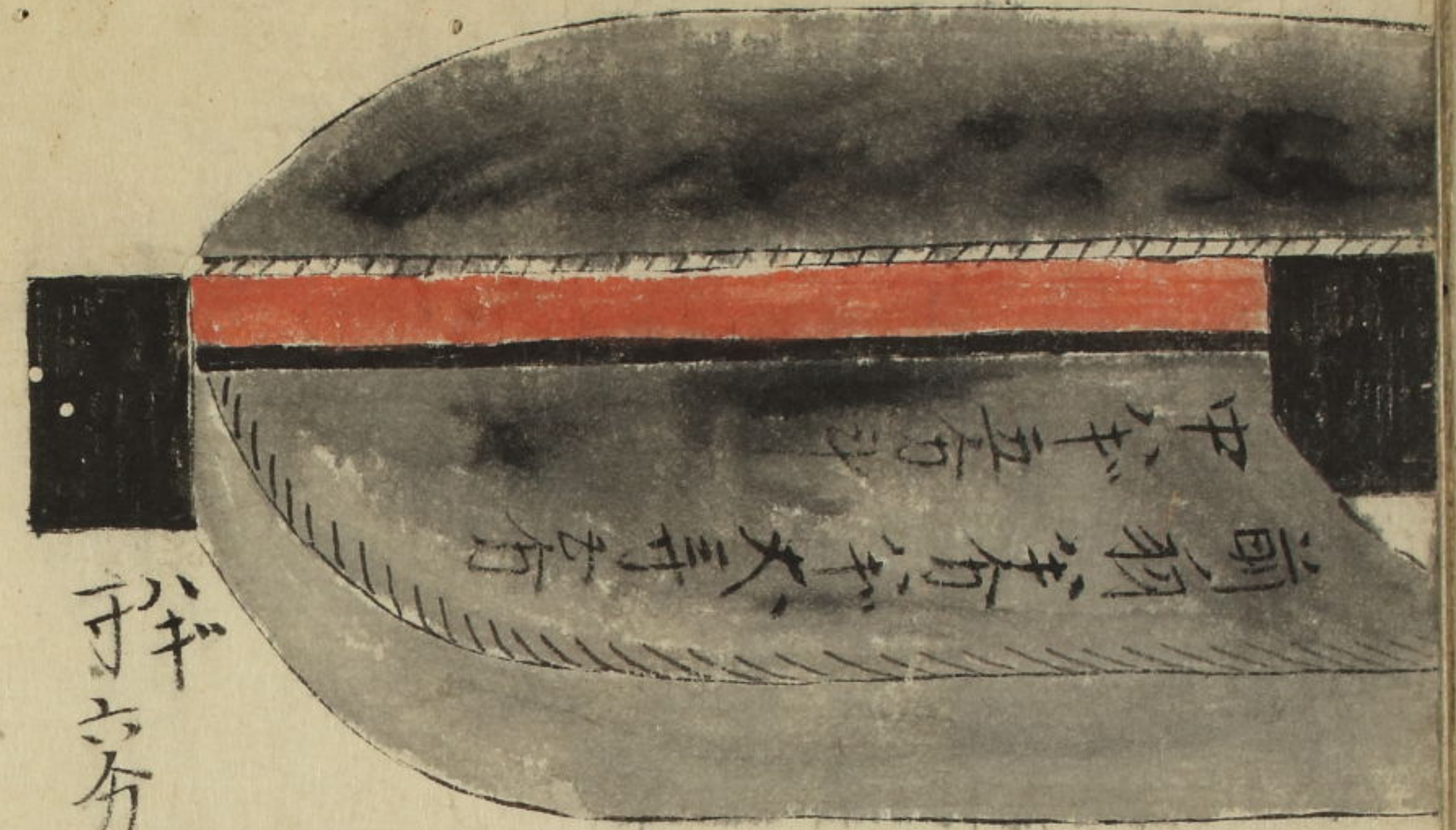
1-1

笠子馬首

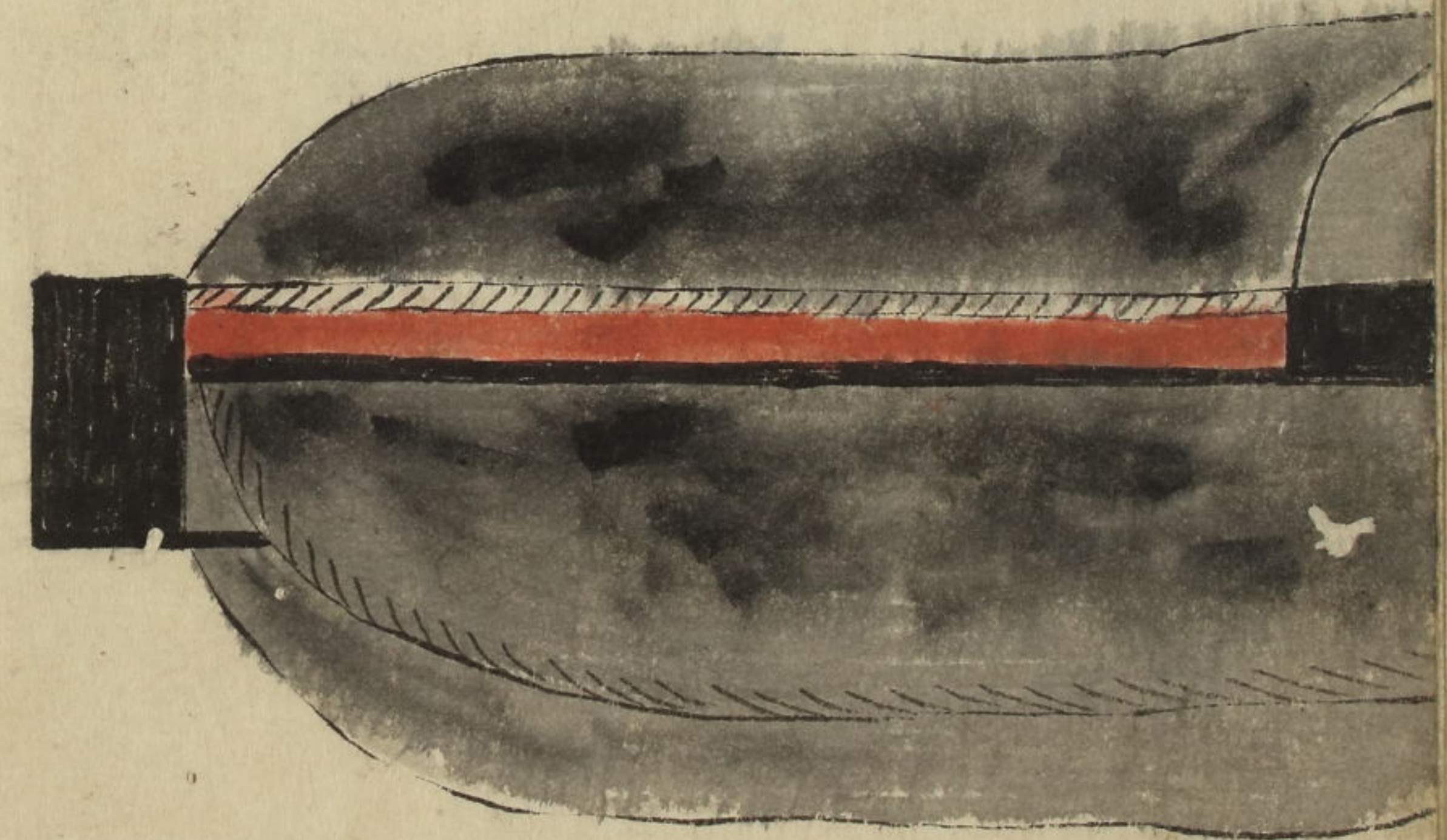
笠子馬首

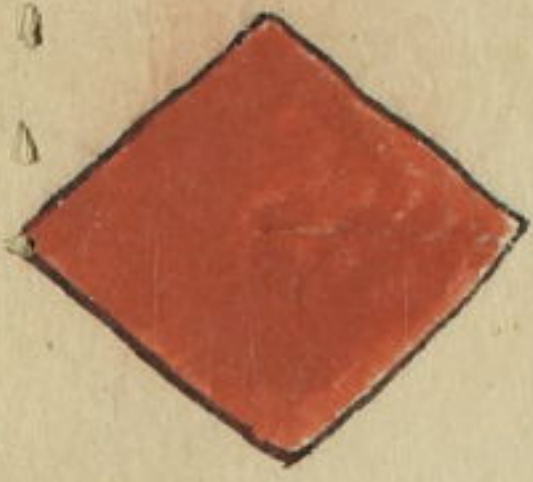


此卷每寸五分

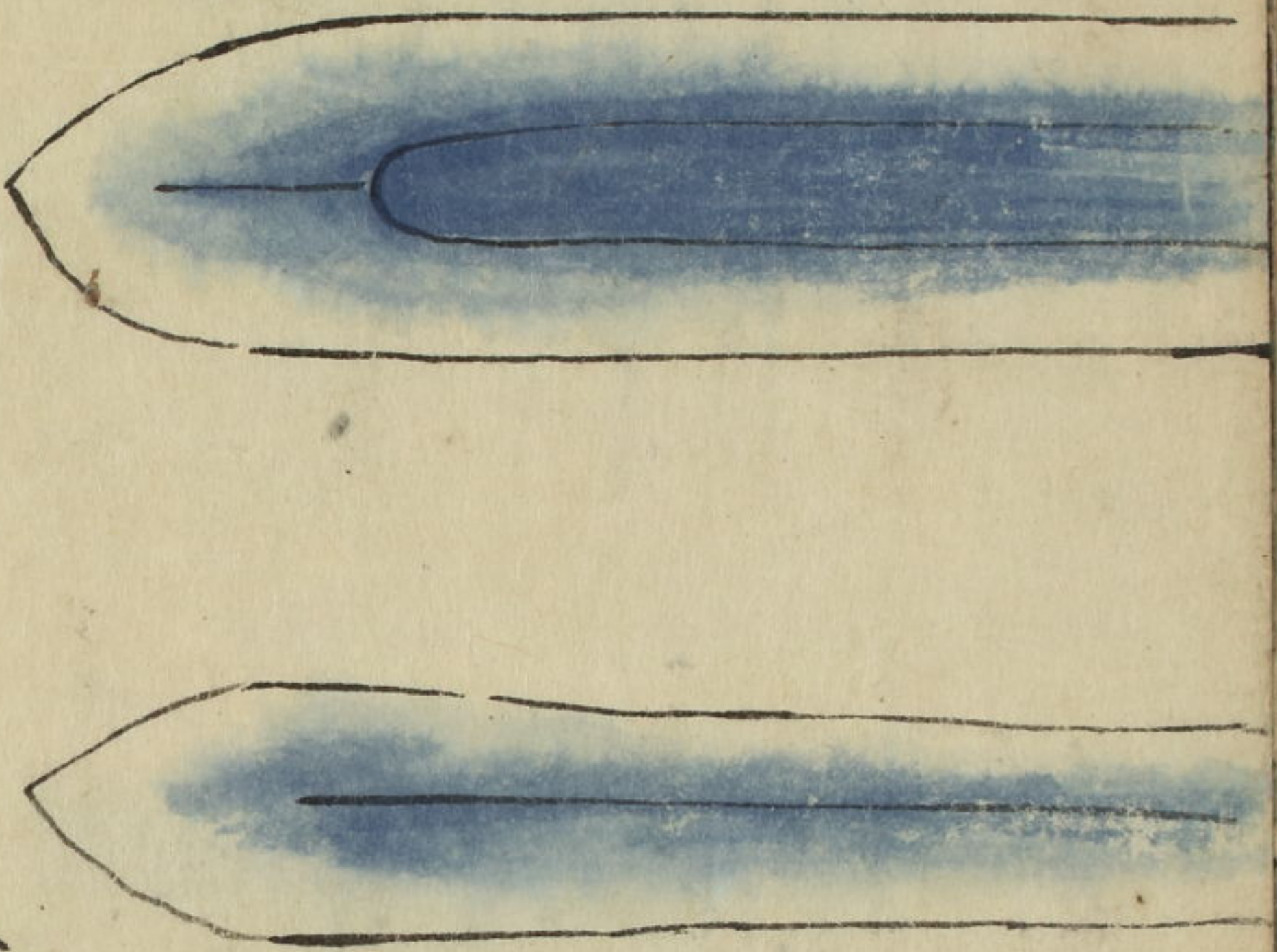


每寸五分





根長可七寸五分
 四角ニ造リ二角ヲ插ニ彫
 太サ如圖



先方
 八分斗トカレ

鎮西八郎為朝之箭之圖

柳原大納言 御之茅岩倉殿藏此家數多

所持之処一本残置南禪寺

一 矢ノ總丈若ヨリ 沓巻ヨリ四尺根ハ除之

一 根ノ丈寺五分幅本ヲ一寸余四方同前ニ方ノ下

中巻ノ頃ヨリアルハシ

一 篋漆塗節ヲアラヌ節ノ所ヲ濃塗タルナリ

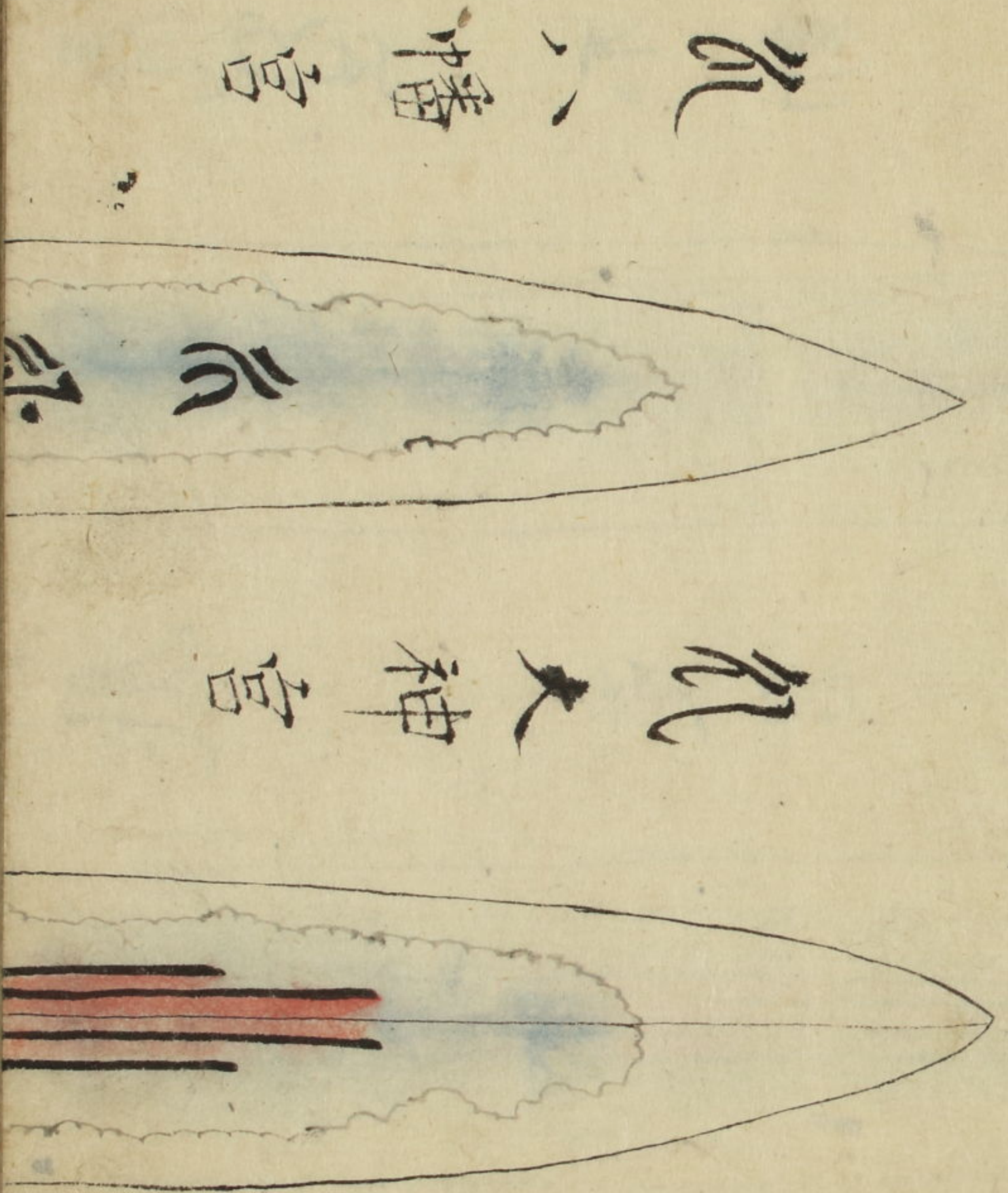
羽ノ中ヲ七四節ナニ

一 羽ハ大島黒母衣四ツ羽也内外羽半寸宛ノ丈也

岩倉殿所持ノ矢也此外ニ永享子ノ此圖ニ造リ又讚
 アリ圖ハ應軋祐至需藤玲勝ア字之トアリ讚ハ村
 菴電西並ニ彦ノ文ナリ年号ノ永享子ニ年己未子孟春トアリ
 此外ニ弘安ノ頃南禪寺代々文書アリ
 近頃小長谷正道 傳右門 原ニ條御城交代之時
 斬日時一覽見此矢字之此外ニ讚有之トモ除之
 右文政ハ酉年四月二十日幕府御旗本小川所住居
 由測景克 作次郎 傳來寫之

本多平兵衛忠勝蜻蛉切鎗之圖

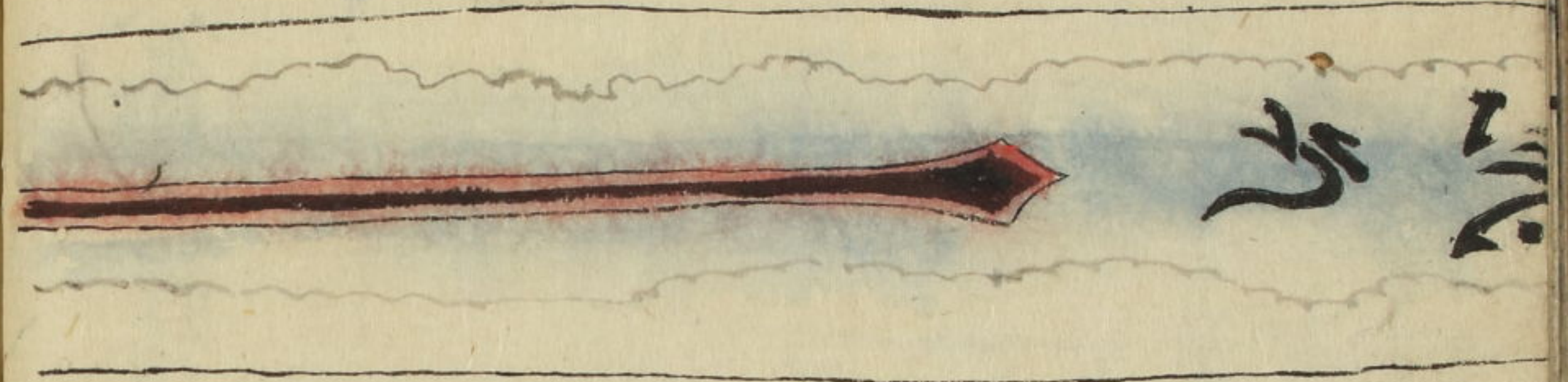
重三郎平 裏平作 櫃



長ノ壹尺四寸五分 表鎗作
 幅ノ壹寸五分

生梵字，切梵字也，釵。

不動



此

飛

變若



連植在 中心壹尺五分

浮劍 中心重子四分半



此

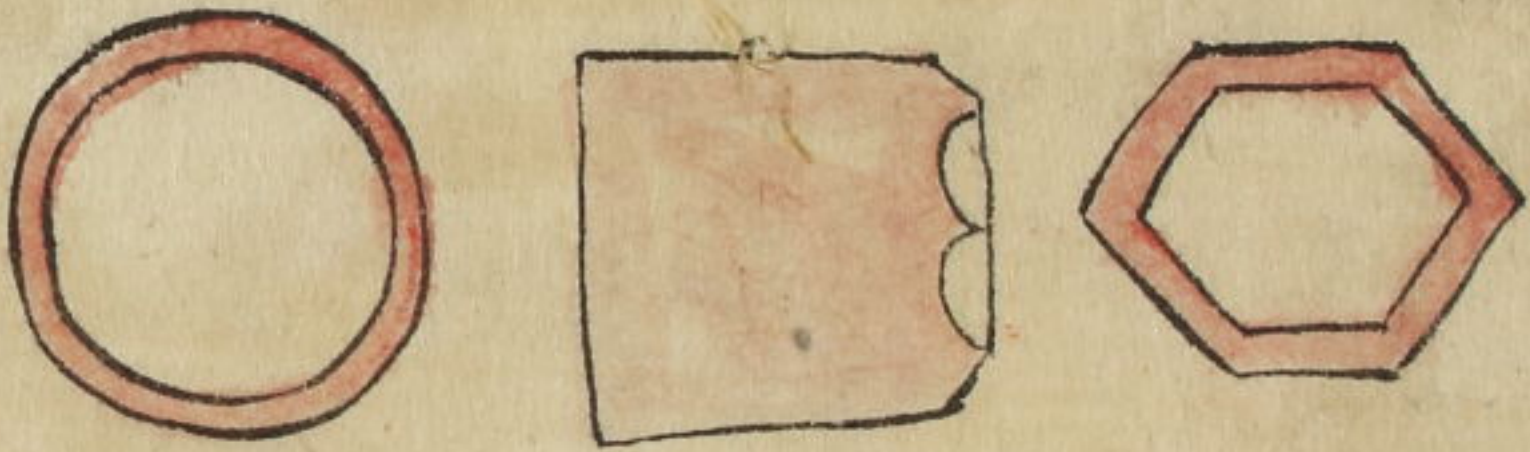


二所目釘

幅五分

田原正真作

三



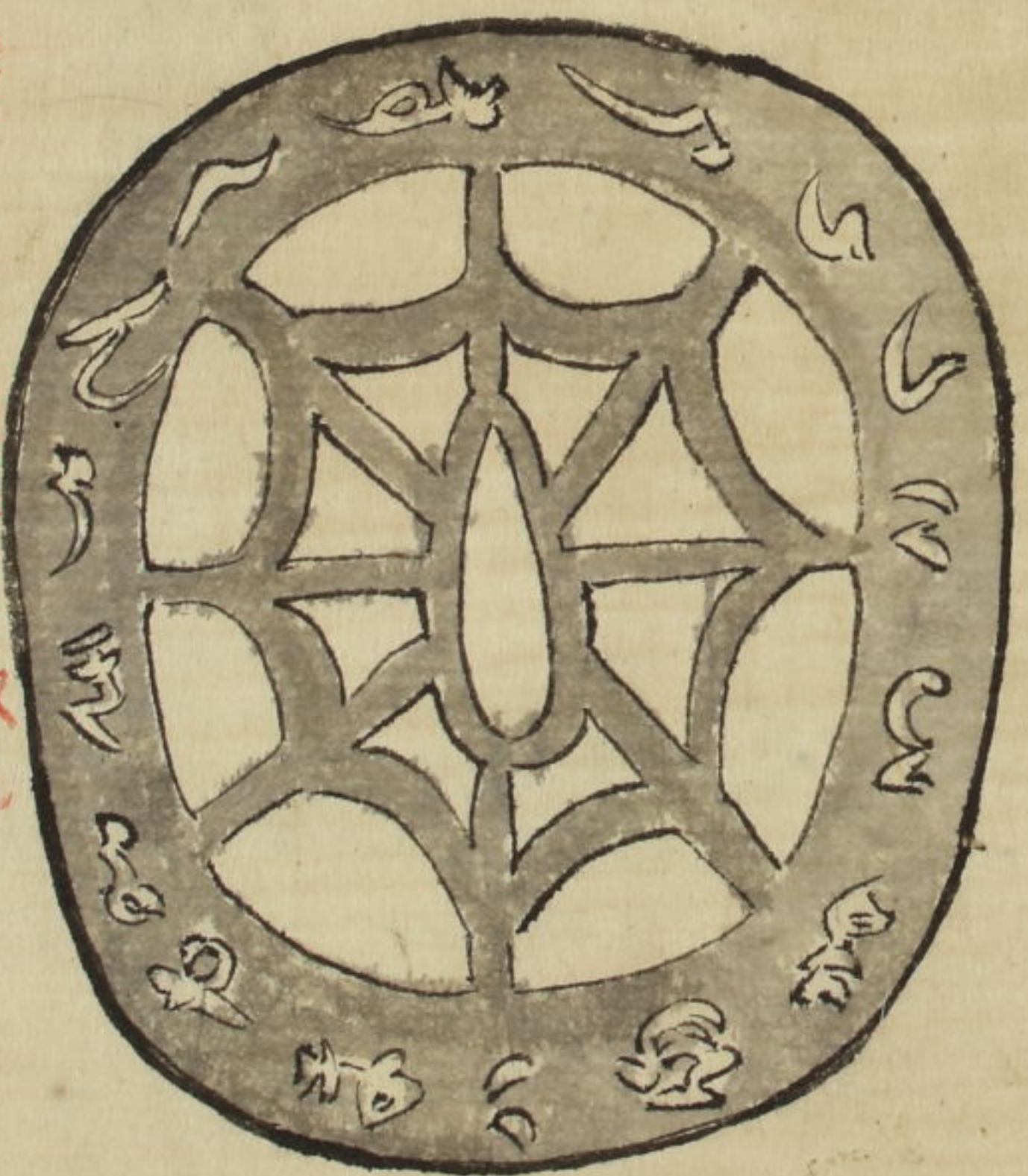
幅三朱
重子一朱

三

本多忠勝兜



鹿角前差物
総黒塗
一尺五寸
六分
九寸

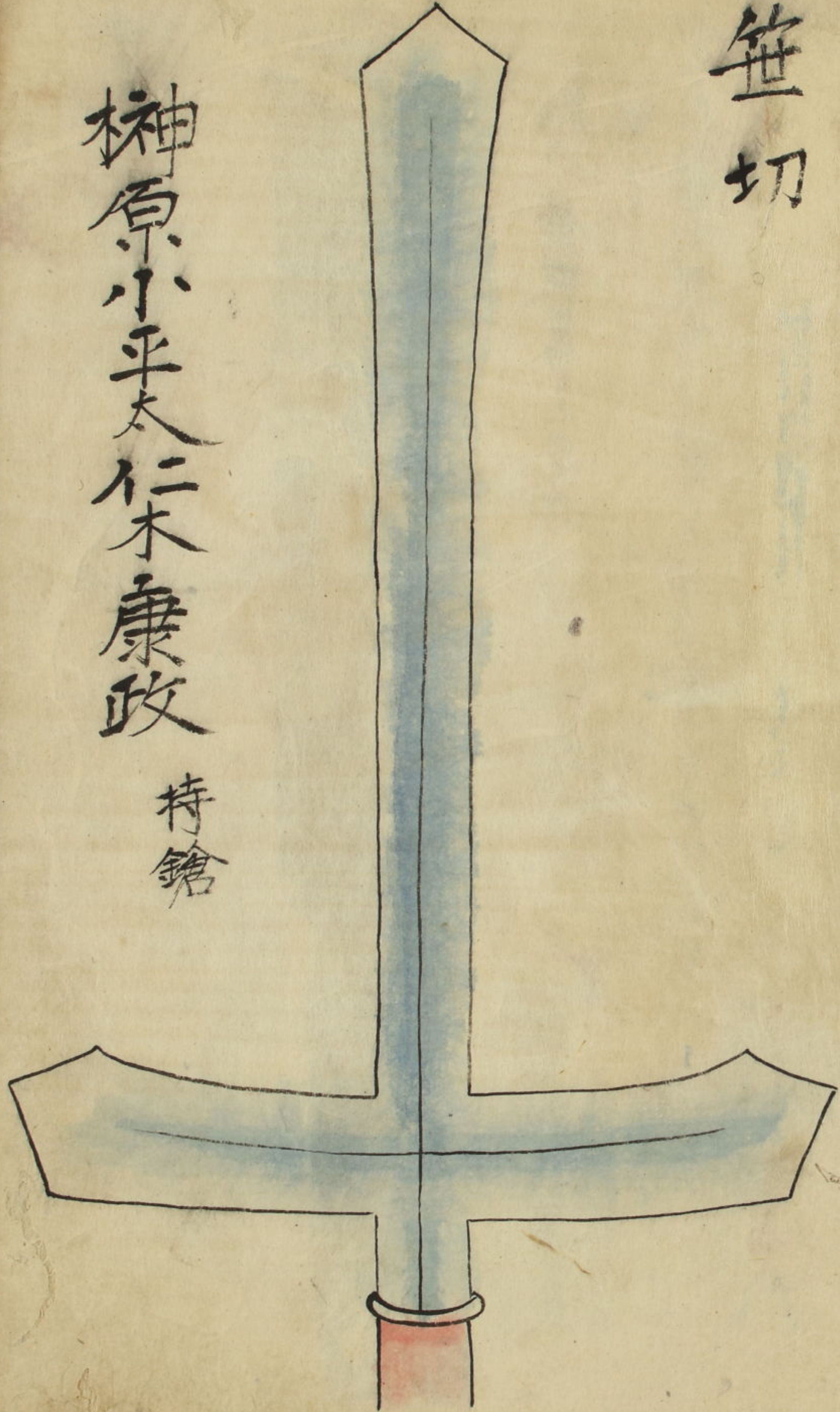


同人野太力鋸
鋸之文字
浮きやいまハ
真丸ころこつこう

箠切

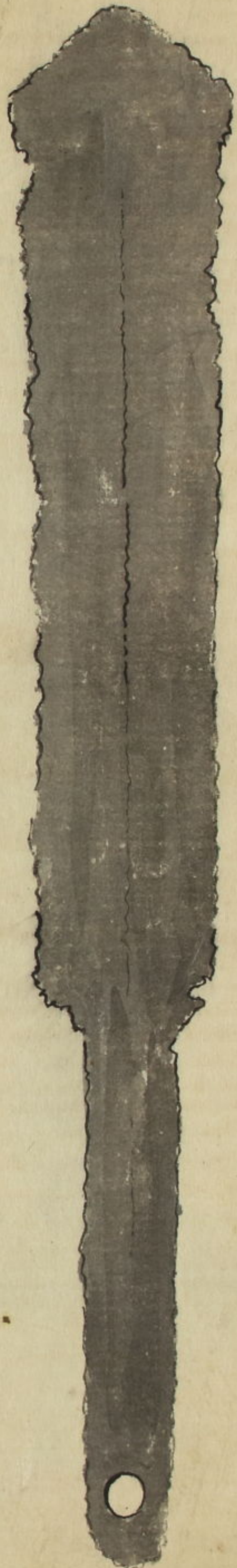
榊原小平太仁木康政

持鎗



烏舌

立金差壹尺壹寸
橫壹寸

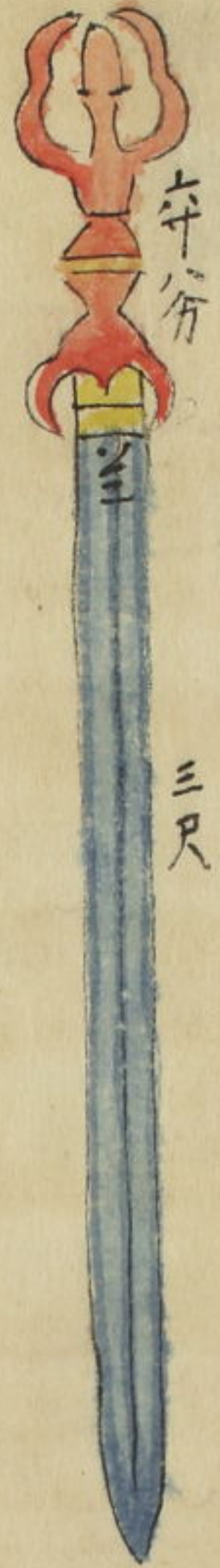


神代武器弓之具也ト云

永井氏之所藏也天保五年春

鳥之

曾加八幡村鎮守府八幡宮神宝釵及矢田村將軍所納也ト云



武藏坊辨慶

六字之刀盤



奥加平泉中尊寺

辨慶堂所藏

武田信玄
爪鏝之圖



同下羽切
寸厚縁

裏

表



在二

楠正成鏝之圖

金象眼地鏝也楠陣屋峯形トモ云
丹羽長門守藩三宅仙藏所藏



武田信玄團扇

甲州住山本宮内家藏

軍配團扇如圖
地黒文字赤山本
道鬼書之柄平字

金貝無裏日形千
在リ柄北日九字ノ文
アリ嘉食ニテ寫ス
ハカラス信玄道鬼
賜ル所ト云

扇面ノ朱点ハ松子ノ中ル所也云

朝鮮兜 乾氏秘藏

大閣秀吉公朝鮮征伐之時
 乾長大夫忠清彼地^丑向^テ敵
 二十五騎^ヲ討取其兜^ヲ歸國^第
 大閣^ニ獻^ス御感^ノ餘^ノ感^ノ狀^ヲ
 來國^光刀^一腰^賜

宣永^年^三月^三日^獲取^ル也^未知^ク其^由
 之^由以^カ知^ル一^劍長^寸廿^七分^柄
 長^寸三^寸六^分形^テ三^寸三^分
 形^テ古^刀形^ニ載^レ内^寸七^寸首^七
 形^古似^ハ此^ハ也^モ也^ト首^七
 云^々也^ト也^ト



高^寸十五^分
 打出^シ
 兜^ノ裏^ハ金^白檀^地塗^テ
 局^箱ハ^寸出^三寸^三
 内^ハ知^此鐵^寸廿^七分^ノ
 請^張三^寸

昔神功皇后三韓征伐之時
 勅武内宿禰制兜稱三面兜



立^山之^藏之^也久^矣矣^矣
 寫^真形^爲武^明鎮^護云^爾
 弘化丙午夏^川田^氏送^レ寫^之置

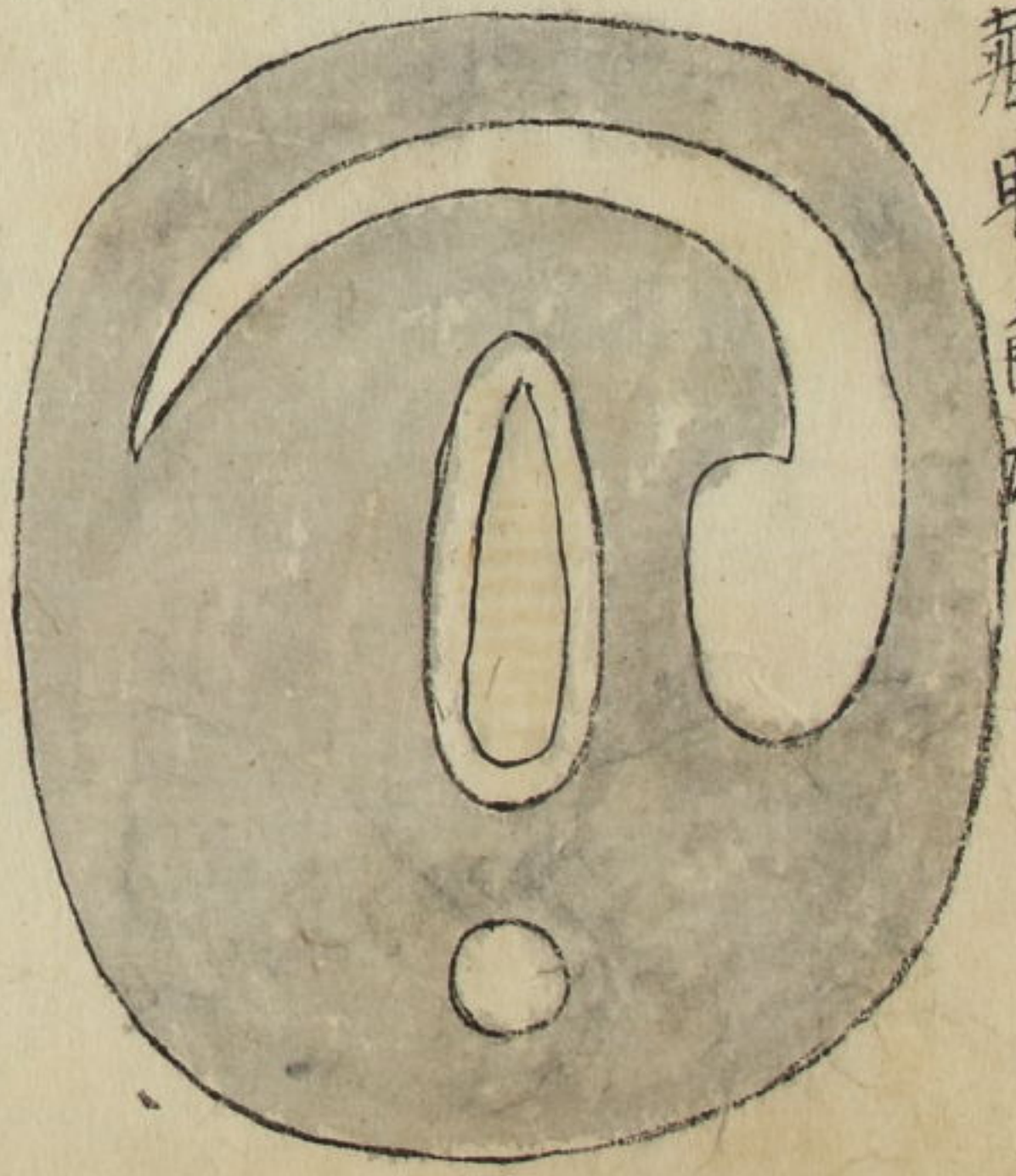
武内大臣
頭槌ノ劔



享保甲寅夏筵紫叡山三
地中ヨリ掘得ニ太刀ノ武内大臣
ノ物ニヤ太刀ノ頭ノ飾槌ノヤウニ
ナシカルト云頭槌ノ劔トモ云
高雄山神護寺宝物内ニ
應神天皇御劔ト云物在其別若

大石内藏助良雄

鐸



北の山

文政十三年正月十日
流布ありし物ヲ多ク掘りし海ノ中ニ浮クモノ見たり
往々神代ノ物ニ在りし物ニ似たり
古ノ物ニ似たり云々
居崩色ニあるノ深形ニ云蜀峨眉山下橋ノ中ニ
ありし物ニ似たり云々
北の山

大政十三年
正月十日

北の山

南上蜀山ニ北の山有る百里ノ海上ヲ流レテ北の山ニ至リ云々
一ノ山ト云々

鎌田又八強力之圖

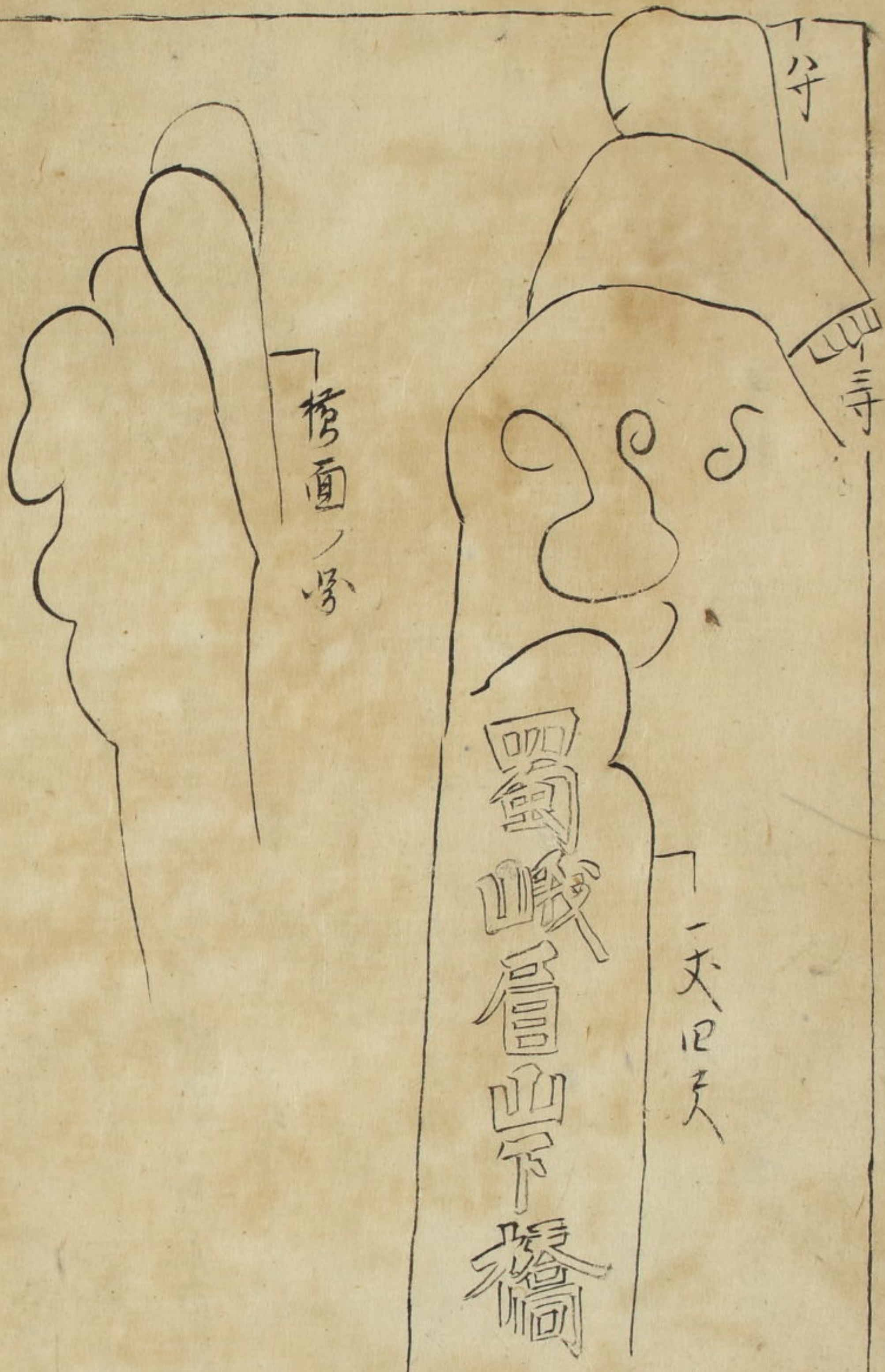


守

橋面ノ字

蜀峨眉山下橋

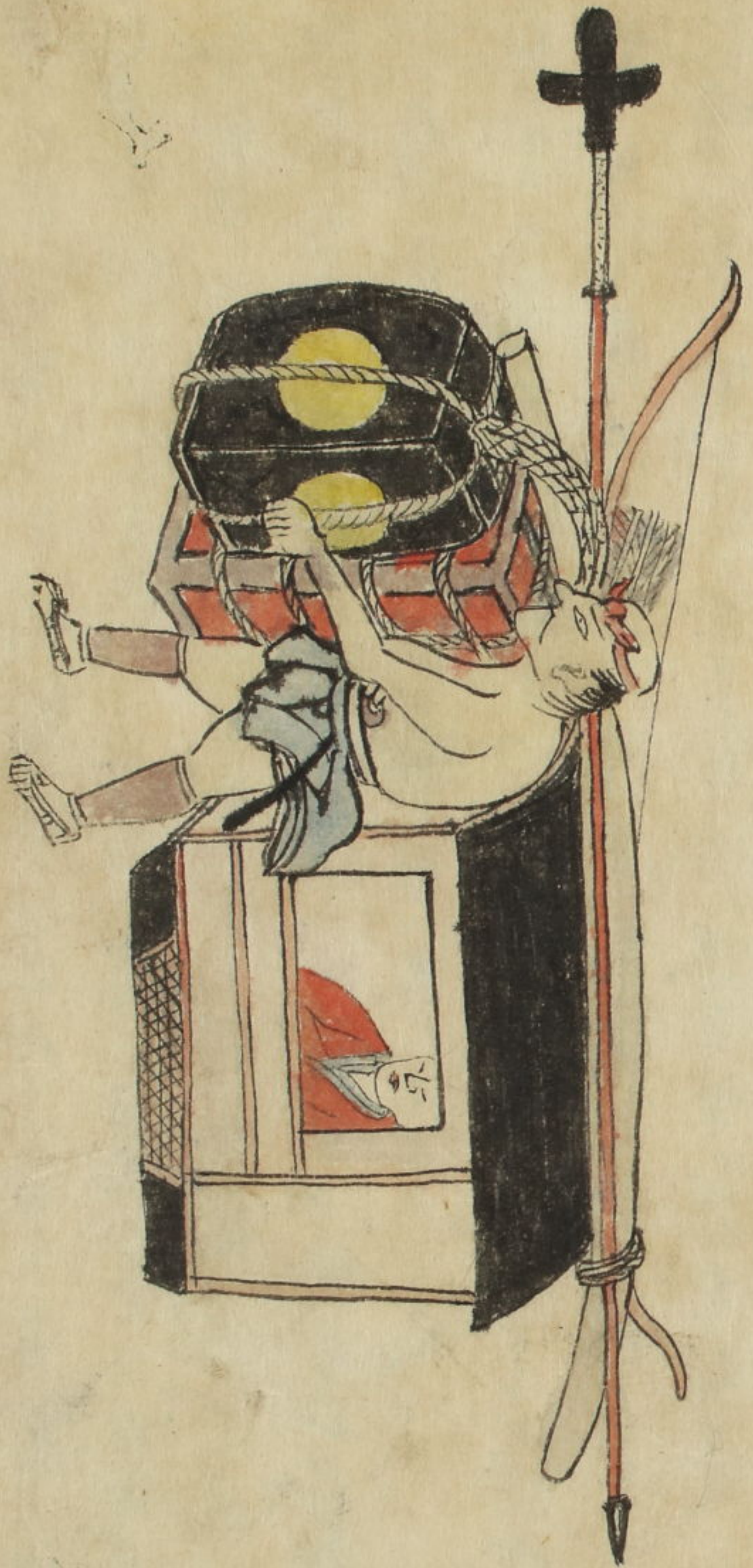
一丈四尺



○臨回又ハ何物ヲ扱フニ至テ是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 幅キラニチカニ三カニチカニ扱フニ至テ是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 臨回ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 時クニノチカニ扱フニ至テ是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也

○是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也

周ニ



是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也
 是等ノ所ニ居ル所人世ニ希有ニチカ也

○寛文九年の芝居より約陸三叔三をぐりぬるち物たる業ありと云
これ依勢より甲斐越人海及赤松如日代を子に備精引止るの左
人馬を舞をたとふ他家より平位に備を根に方逆三つるの如し此等
取えと自ら取言と云れハ世人犯人ありと笑ル物如物見れは元々
ゆくを子ぬきしと云実を妙術感三つと云ふこと

○寛文九年より約廿五祥ちの如く申中二方余る石碑建替る時日代チ
を子に備精人馬三十三人誘ふるを而他家より備見あり是武三つの方逆
も誘ありと笑ルを考人馬の備三石碑を張りてハあり候はる
笑ゆらめハ美人で建て在りありと云備建ても足利根が足代備日備
備りが書りてぬと云れハ備三つはるの如くは又云備先源建替
と云備建替ぬれど曲りぬるが不知と云と云ありハ此等事ありは云
と云備建替と云へ先ハ備建替ぬる平位候ぬれと云備ありと云

○寛文九年より約廿五祥ちの如く申中二方余る石碑建替る時日代チ
を子に備精人馬三十三人誘ふるを而他家より備見あり是武三つの方逆
も誘ありと笑ルを考人馬の備三石碑を張りてハあり候はる
笑ゆらめハ美人で建て在りありと云備建ても足利根が足代備日備
備りが書りてぬと云れハ備三つはるの如くは又云備先源建替
と云備建替ぬれど曲りぬるが不知と云と云ありハ此等事ありは云
と云備建替と云へ先ハ備建替ぬる平位候ぬれと云備ありと云

備と云物りしと云又と云是辰犯三事如奴三小方と云云候と云

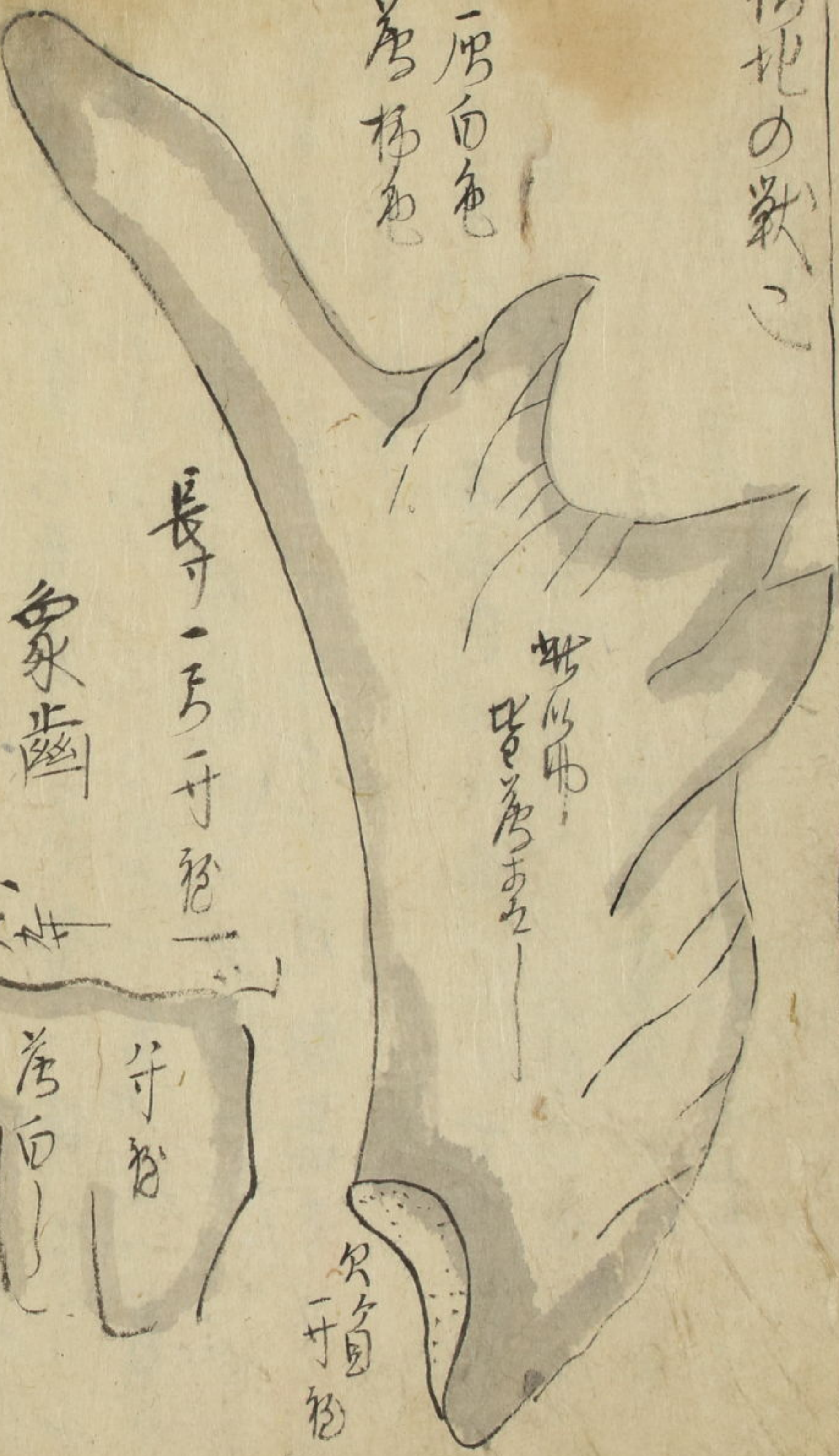
馬骨

馬骨の中骨もある馬骨村と云ふ所の言ふ字通照ち
と云ふあり骨を馬骨からそこあり馬骨骨ヲ切つてこりて
以て骨ヲ切つてあまあ〜人よんせて名ヲ削てある
馬骨のありり〜骨の馬骨人の骨のありあせり
馬骨の角の馬骨骨ヲ足せり〜骨を漢鞞爾干といふ
馬骨の角ある〜骨と云ふ

武列江平あま心もあま心井平場と云ふ所の骨の骨を
切つて〜骨人骨骨あると云ふ骨の骨あま心
〜骨の骨は馬骨の骨と云ふ〜骨の骨あま心
骨を切つてすめり骨の骨と云ふ骨の骨と云ふ骨の骨
もさうり知る〜骨

北海物産の類

表一層白色
裏層褐色

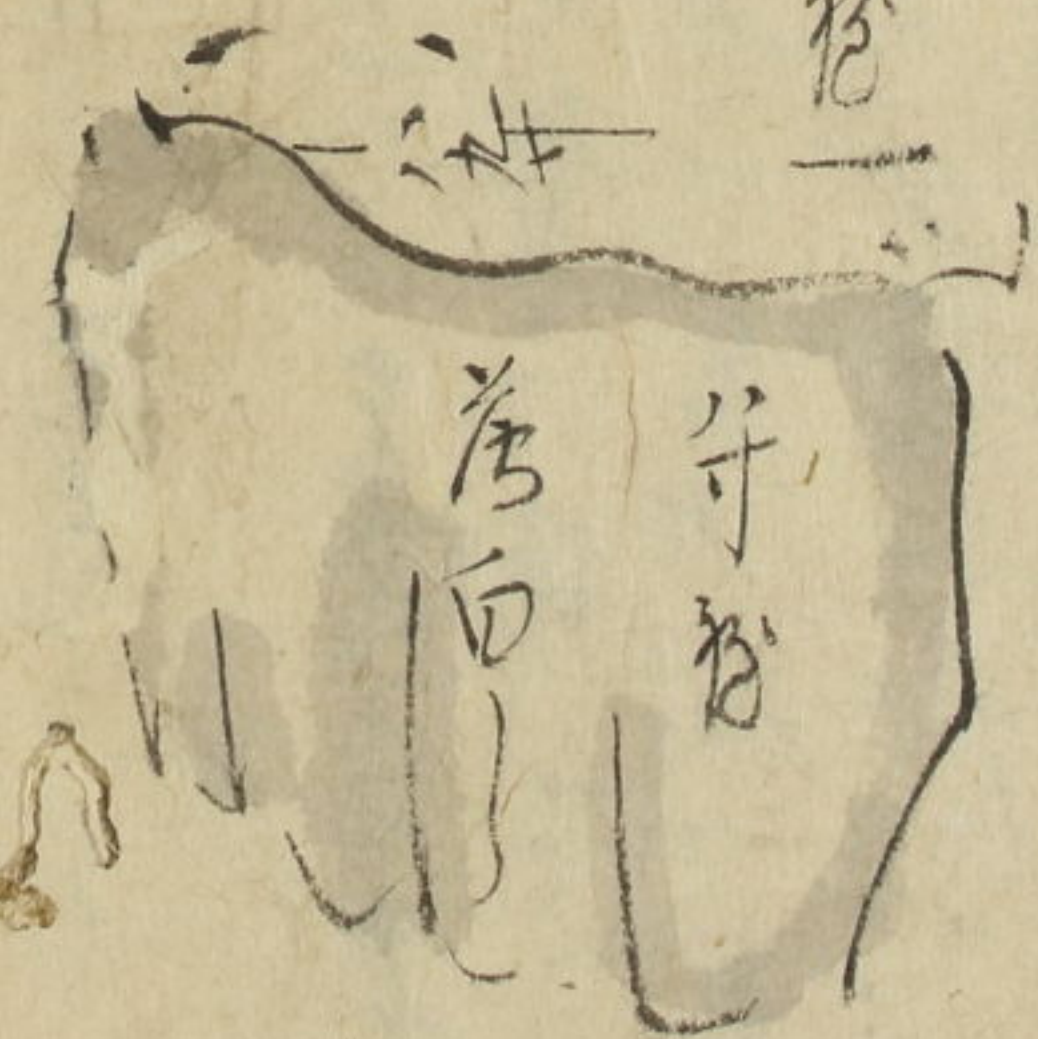


長可一尺二寸程

象牙齒

此は馬の
歯の裏面

只今
一寸程



守
層白

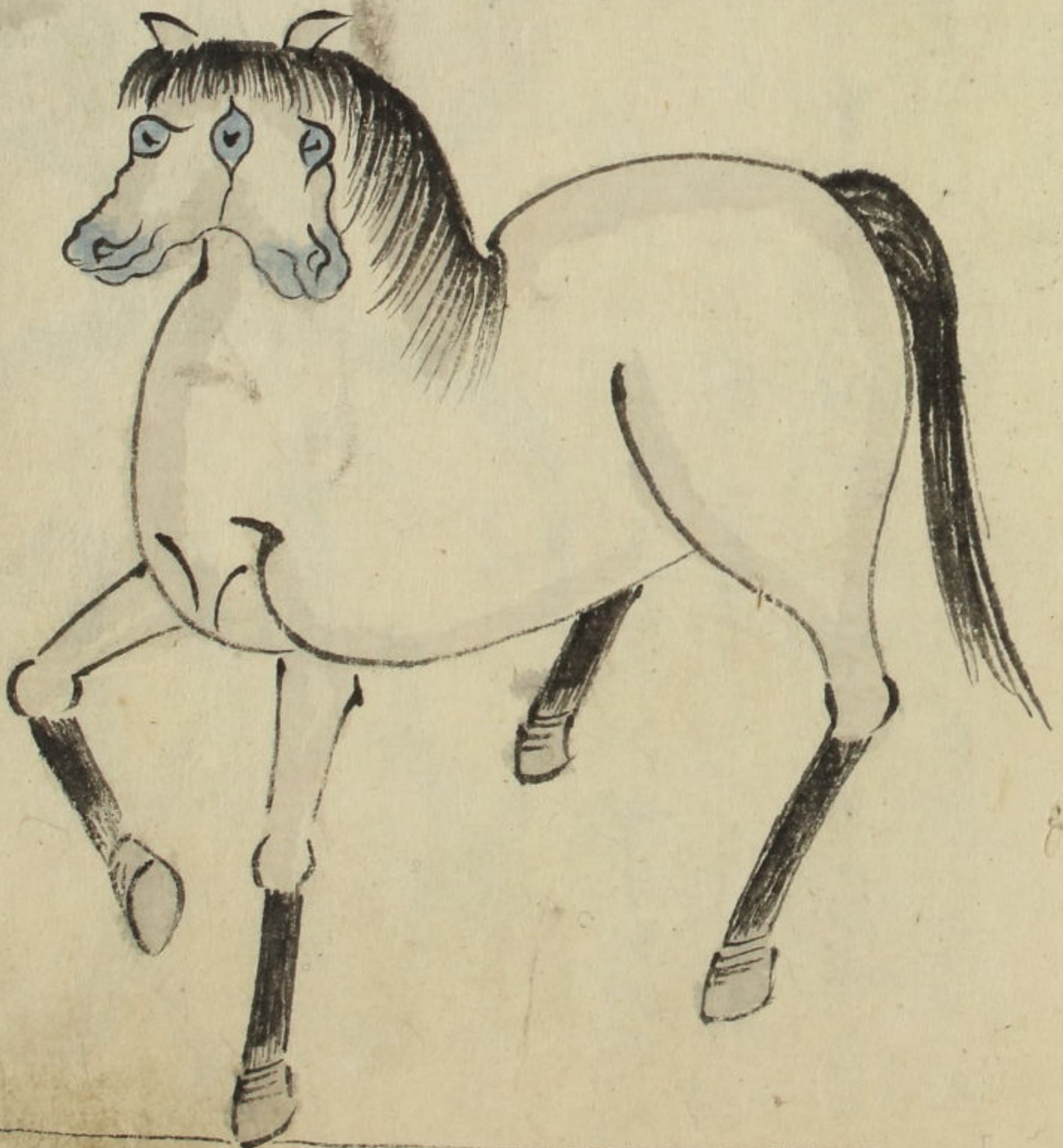
両面三目馬

文政八年八月三日
津波及西代序
百済寺九年
牧三二
為改
彼
中

八月七日
長
土

西
村
中

印
印



画工谷文晁（ちやう）をよめりて
 を出仕尾（おし）白柏（しろかし）子（こ）を舞（ま）を



樽垣女形自作圖

ちより申有余年（ま）秋つら（ら）衣（え）改（か）
 正（ただ）や（や）も（も）と（と）あり（り）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）
 て（て）後（ご）の（の）ち（ち）り（り）



ちの三女（さんむすめ）の年（とし）、申（ま）有（あ）余年（ま）、秋（あ）つら（ら）衣（え）改（か）
 彫（う）刻（く）子（こ）を（を）舞（ま）せ（せ）し（し）る（る）の（の）ち（ち）り（り）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）
 場（ば）見（み）れ（れ）ハ（ハ）石（いし）を（を）置（お）き（き）し（し）て（て）埋（う）め（め）た（た）場（ば）知（ち）り（り）今（いま）集（あ）り（り）并（な）み（み）花（は）見（み）れ（れ）又（また）心（こ）に（に）集（あ）り（り）
 り（り）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）
 樽（たる）垣（がき）の（の）ち（ち）り（り）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）
 舞（ま）い（い）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）
 白（しろ）川（がわ）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）
 年（とし）曆（れき）ハ（ハ）五（ご）思（おも）外（ほか）も（も）白（しろ）川（がわ）の（の）ち（ち）り（り）
 又（また）杖（つゑ）を（を）持（も）ち（ち）て（て）舞（ま）い（い）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）
 他（ほか）友（とも）り（り）付（つ）け（け）る（る）俊（とよ）者（もの）或（ある）少（すく）少（すく）也（なり）樽（たる）垣（がき）の（の）ち（ち）り（り）
 正（ただ）や（や）も（も）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）
 又（また）心（こ）に（に）集（あ）り（り）と（と）い（い）も（も）わ（わ）く（く）神（かみ）の（の）ち（ち）り（り）

依る無多を唯 舟に如さしてめをうらとるるもあはる物と
 生て多而も、命を死して物とせよあはるんとまゝのひとる
 舟にたると趣あり也うらやゝ老習 志神ゆこととて亦或海路とて西海に入
 り依る提 新田改 極 依る多の神と名を神杜と建神の
 言柄と云

英一蝶浅書舟之圖



船中
 妓女烏帽子お千代
 鼓ヲ推るゝ号之

人五百九代
 依る多の神 卽制衣

今宵席る浅書舟の浅くぬ
 皆を能く又つりこころらん

海川海色朝日君若後ちうらうらう三福京の家をきくと云ふ。公ち三傑
輩の托家と仰り如き及家殿を承へ一傑画く海影多あうと故
世三傑ちと云ふ惜然言の事うらう懐多すと

頼朝伊豆國配流之節
内府重成の自筆之一通

其方時節無恙今日池禪元慈救之願依別儀
之沙汰達

天砂是人中を助く身は早武運ト云果鞍ト云ふ思候
蹴斗保明日異沙汰を離嘉境よりを越らうと申神候
押く蹴り引候事。品ひゆる死而も裏田女の波の上も
何より運多事ハ事毎騒狂らう荒波位位を近流より
候へ之候く内押を喰く作て之思の舌命を證さう候
臨悟を之を磨ハ次々高擡一今高砂麻の丸研及神候
布合衣ら引御着あを石素志已不候

三月十一日
頼朝諡云々
重成

古後四郎行々々名あり而一と名ありあけ志らざるまゝとまゝと人
強名あり而武名あり行々々人足る而よしと名ありあけ志らざるまゝとまゝと
くくくく地より北へくくく昔くくく山川列てくくく神社仏閣ありて
懐古くくく懐古くくく

○江戸流覽が剛くくく昔を列強名を建てる唐徳庵自体長きハ
も列強名を建てる唐徳庵を建てる唐徳庵を建てる唐徳庵を建てる唐徳庵を建てる
白菊と信玄の里九人入りくくく入江入りくくく岩と岩と
白菊と信玄の里九人入りくくく入江入りくくく岩と岩と
白菊と信玄の里九人入りくくく入江入りくくく岩と岩と
白菊と信玄の里九人入りくくく入江入りくくく岩と岩と
白菊と信玄の里九人入りくくく入江入りくくく岩と岩と

鎌倉

五水 (金童。不老。銭洗。日蓮也。)
揮原太刀洗等也

十井 (六角。棟立。瓶。井落。鐵。泉。扇。)
底腕。星月夜。石。等也

十橋 (琵琶。筋違。歌。勝力。裁許。針磨。)
夷堂。逆川。乱。十五堂。等也

四境 (東六浦。西稻村。南小坪。北山内。谷七郷。津村。小林。葉山。矢部。)
村岡。長尾。

七切通 (名越。朝夷名。巨福路坂。龜谷坂。假林坂。極樂寺。)
大佛。

元とてさうさう獨り海への列ある日とありてさうさう
の先をさうして戸塚の麓に花を求めた古くは鳥の跡さうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
とてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
居をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
辨成す方の事の中をさうさうさうさうさうさうさう
州界をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
中をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
又さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
諸事ありのさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ち已貴さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あり先をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
の地をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

は島美く令の花咲か令陸の事あり令花山こ又
巴の橋を造りてさうさうさうさうさうさうさう
の海をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
是ハ洲に令し令諸事あり令諸事あり令諸事あり
今江の事作らるる事あり令諸事あり令諸事あり
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
多めは是をさうさうさうさうさうさうさうさう
元ち油の島土の山嶽之小池あり江の島に人さう
の六年己巳日身は海嶽ありさうさうさうさうさう
は事り川を渡りてさうさうさうさうさうさうさう
とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
浪又静に羽舞令世若江のさうさうさうさうさう
美さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

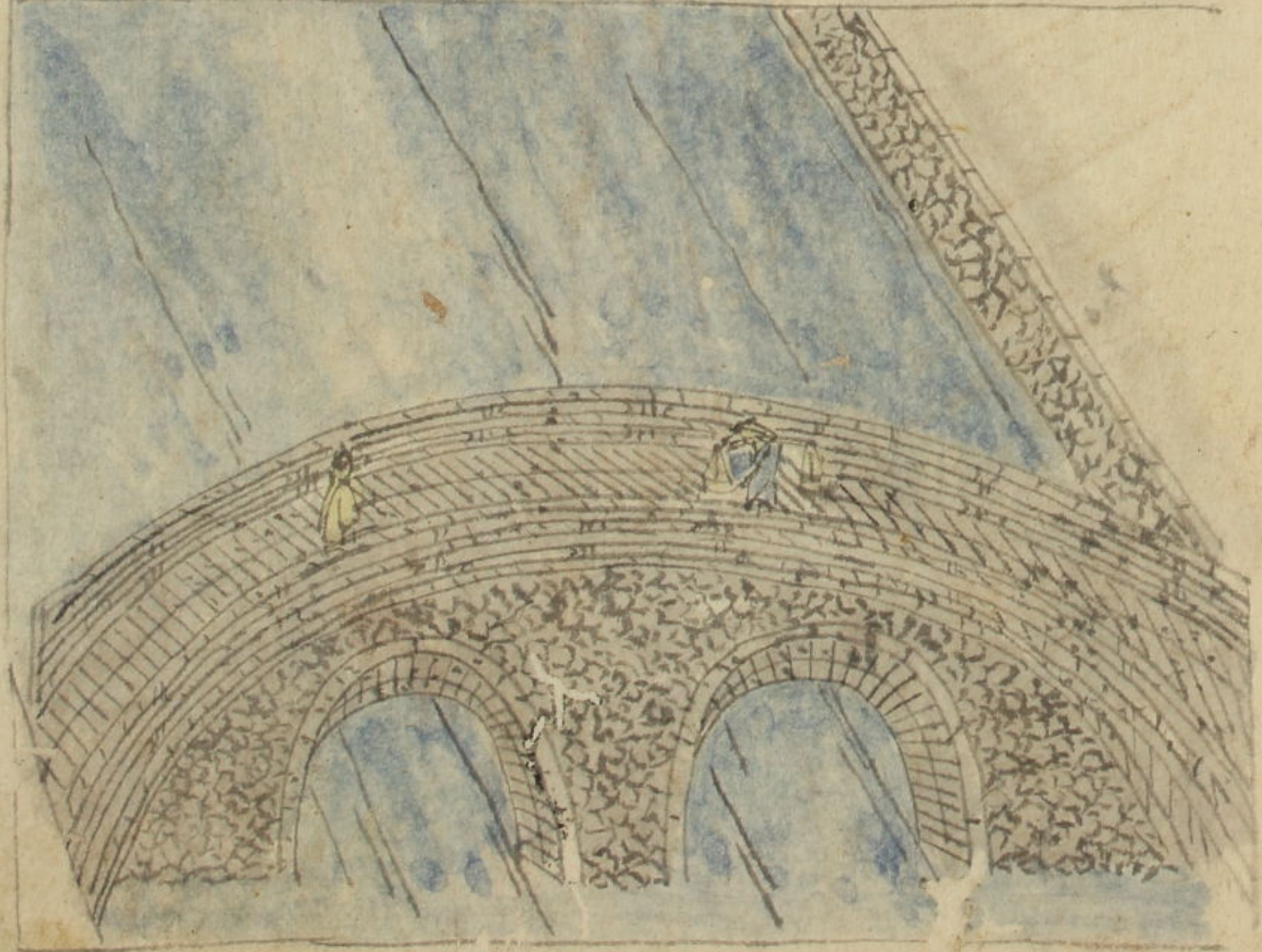
武所
金澤全圖



周防國 岩國 錦帯橋



肥前國 長崎 眼鏡橋

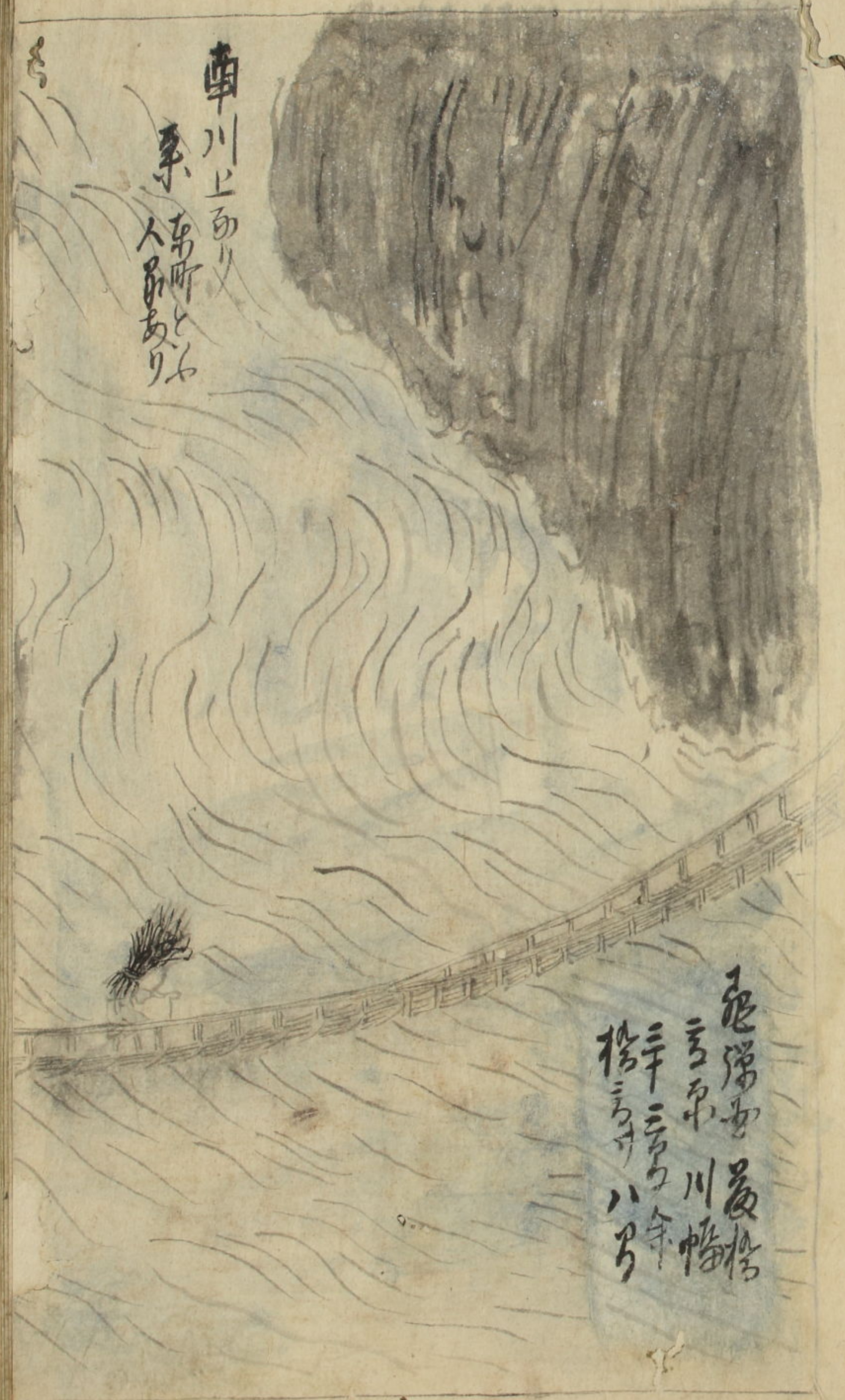


せうれし富士の言根も能く足元の舟楫松の葉を越えたるも鯉よるふりり
 海を堅きまるとる隠念の海はゆふあや波瀾漸々としてなやまら
 ちやあともえつらんかまひてまめる船の初乃月と信濃別長
 孫のあひもあまるとひあうらるるよし延室の比中舟のゆつ川車心越
 孫師と安くがあ府公も召れてあまもありの空のあつ満相の常橋
 似りとて、八首の詩を味むむ、美軍の海を渡りて中舟の風也を眼
 ちよるるの傍色あまら

梅花無盡藏云出金澤七八里許攀最高頂則山之水之面之佳致
 昔畫師金岡絶倒擲筆之處有石無基但其名不甚佳相傳曰能見
 堂也又云畫師擲筆之山

登之匍匐路攀高景集大成忘却勞
 秀水奇山雲不裏畫師絶倒擲筆秋毫

萬里居士



南川上あり
系 東所と
人あり

長澤女長橋
三京川幅
三三三三
橋三三三
八三



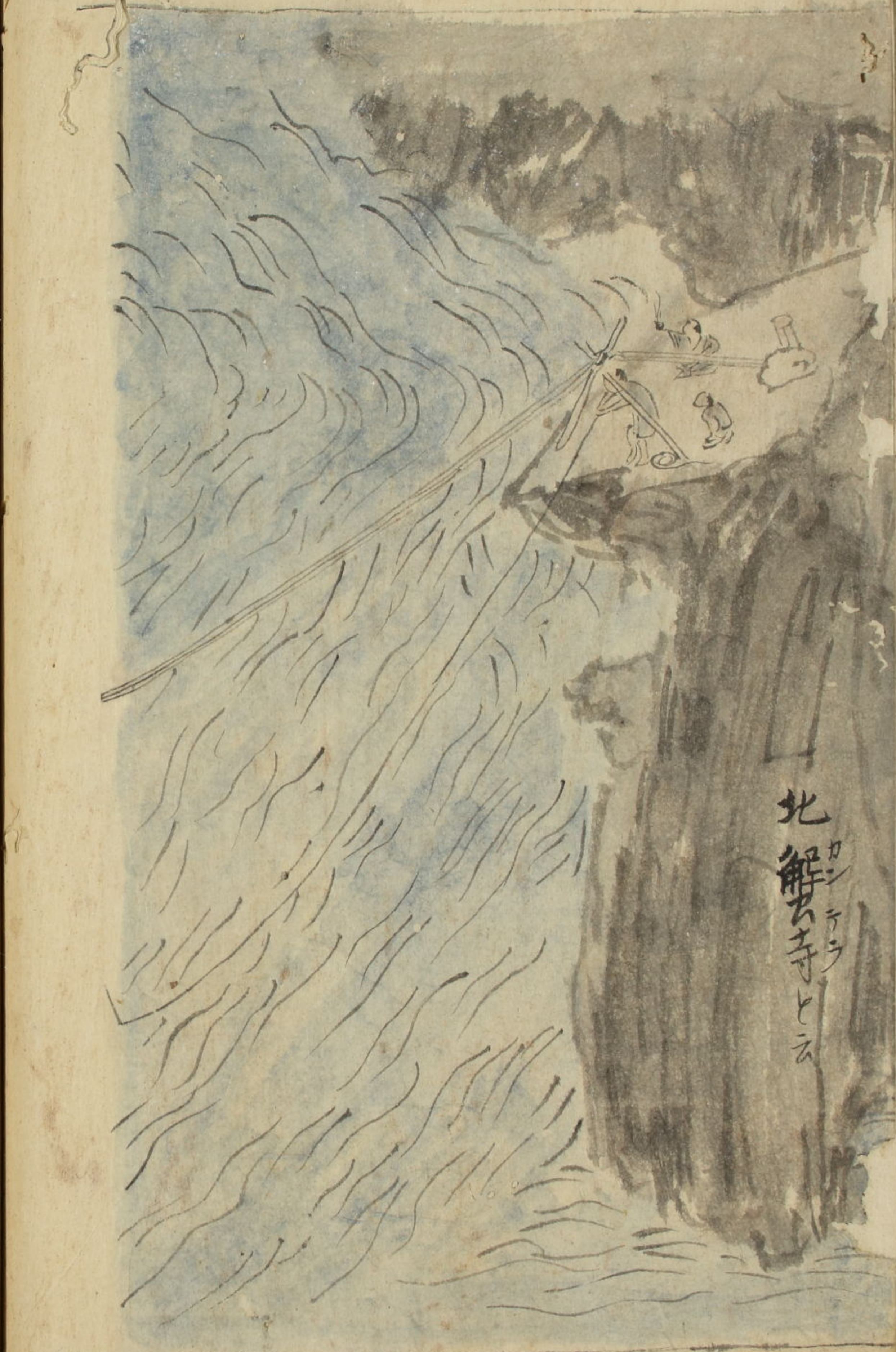
西
湖
人
あり

南
龍
潭
山
と
云



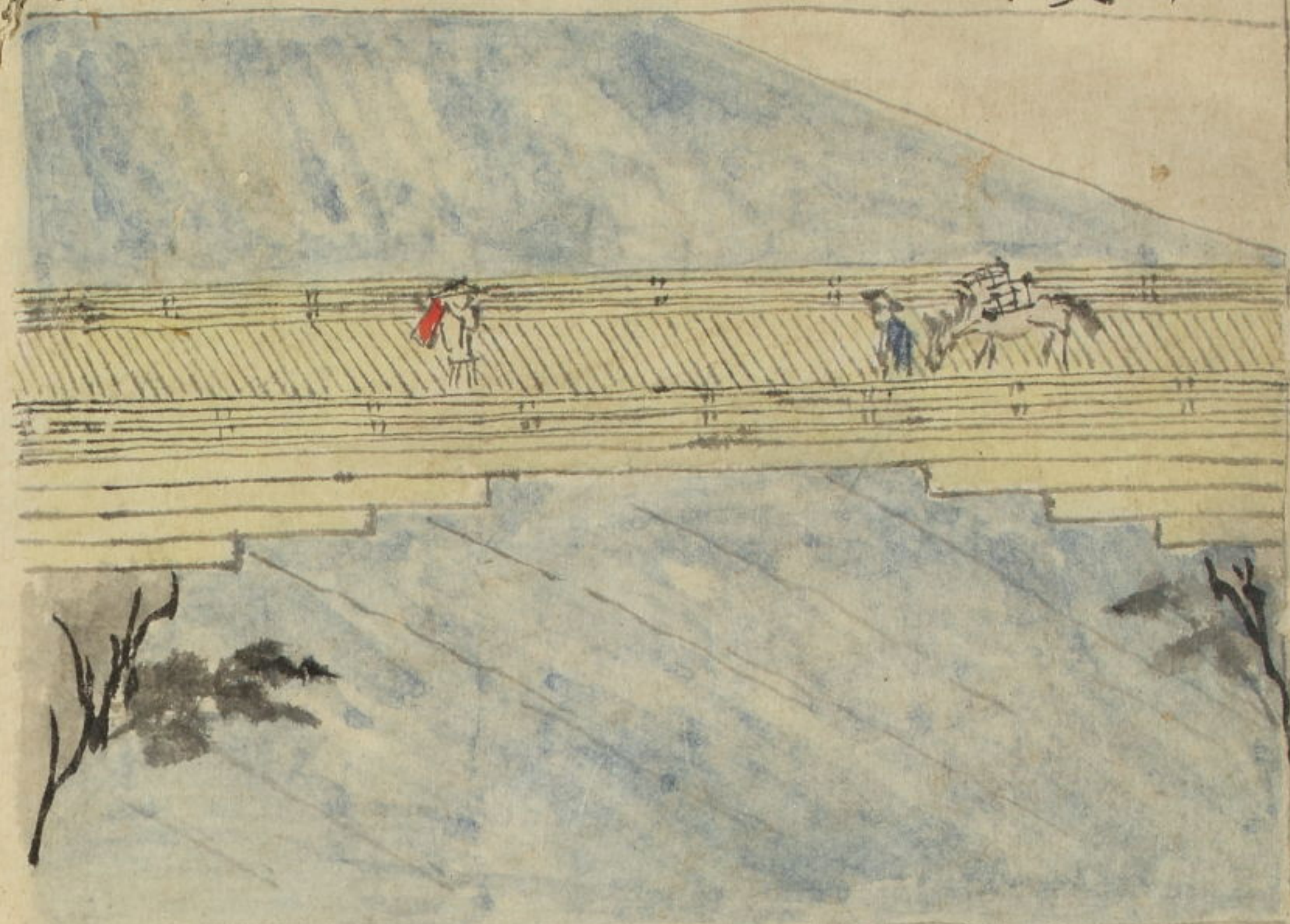
龍潭の
山
と
云
龍潭
山
と
云
龍潭
山
と
云

北
龍
潭
山
と
云



甲斐國

橋様



越前國 三國 木石橋



我朝の地位より六町に及ぶと云ふと云ふ一町と云ふ一町宛
 十をき及と云ふ及と十をき所と云ふ所ハ三十歩ありき及
 十三百歩こそ所ハ三百歩こちハ早急の先別有るき及
 二町一町をき及もあり又き名を平或井とありちも有
 け居田井并て後後地と云ふ所ハ又又都鄙或ハ城
 市のを通居居の魚路を考てちハ平代の位を中ら
 ち石或平ち而れハ十の位と云ふと云ふ及と極るこ
 又き及と云ふ及平とありち而れハ十二の位と云ふと云ふ及と
 ち石或平ハ極るこたといハ十の位と云ふと云ふ及と云ふ
 ち石或平ハ同町ありハ十町有る云ふと云ふ及と云ふ及
 ともいハ又十町ありともいハともいハ是を積りといハ

ありし農家分他リを時の季よそあり我初まてま田の及こ
らうきい井田の節は伯丈千石と云ふり二丈と父母と妻と
と云へり人り多し一是はあつちの百石をいさうき中あれ
を是を伯丈と云ふ年十六才以上あるりて是はあつちの
千石の年々及ひて妻ある時百石の田を受るあり
ある年々及ひれば田を返すこと凡田九百石を地割と云ふ
田角より井の字のてく百石の九つは刻高の百石を
公儀の田と云ふ一而八百石の田を千石家の私田と云ふ一
石先公田百石を千石を今田極果え川地として功と云ふ
毎時公田を乞中々早て私田を為すまはる之極公家の者
中今て葬礼を極し年々公儀に他お取定もお出さし
ある但願盗賊のせきさちもあ借もある一庶民もあはれ

もはあつちすけて八家分ちりましくあつちの百石を井田
と云ふ一徹法と云ふ一ありや井田其高田之代の地法ぬる
そ大田をあらせせり田村のあらはるは随ふ川保り
ありて諸人の今あつちのやうは先主のまはるはさう
やうはまはるはありや古法今之せは難事あるは
古法はつちのやうは高田の盡く其高の法をぬるは
田を悉く高法はあつちのありは高田其高の
二代をつちの見てあらはるは高田之田其高へて戦士のせ
ありて美奈の高靴井田を屋敷り終るは後代に改め
を勤て末世法氏の困窮と成り漢魏晋六朝隋唐
宋元明の世までありて出さつちの才終る井田の法は
つちのありあつちの川保り其高の法は

の^み色^み強^りく^く知^る人^もあ^り一^一流^や古^古事^事を^を受^受事^事り^りく^く田^田地^地
己^己世^世の^の或^或に^に奪^奪れ^れ或^或に^に衣^衣會^會の^の爲^爲に^に富^富の^の多^多は^はり^り又^又
今^今と^と富^富も^も幾^幾程^程あ^あり^り移^移り^り替^替り^りて^て二^二百^百年^年の^の今^今も^も
多^多れ^れる^るの^の實^實は^はあ^ある^るに^にあ^あら^らず^ずや

毛^毛心^心多^多ら^ら梅^梅地^地あ^ある^ると^と云^云ふ^ふの^のも^も一^一段^段あ^ある^るに^にあ^あら^らず^ずや

一^一歩^歩ナ^ナ一^一丈^丈と^と一^一畝^畝ナ^ナ三^三十^十丈^丈と^と一^一段^段ナ^ナ三^三百^百丈^丈と^と

一^一町^町ナ^ナ一^一町^町と^と一^一畝^畝ナ^ナ三^三十^十丈^丈と^と一^一段^段ナ^ナ三^三百^百丈^丈と^と

傍^傍列^列伊^伊予^予新^新山^山川^川村^村名^名及^及西^西北^北と^と古^古の^の記^記

今^今人^人中^中国^国ハ^ハ六^六町^町一^一里^里ト^ト云^云歩^歩数^数ハ^ハ相^相準^準ス^スレ^レ所^所
ヲ^ヲ以^以テ^テ里^里数^数ヲ^ヲ積^積ル^ルハ^ハナ^ナキ^キナ^ナリ^リ町^町ト^ト云^云ハ^ハ春^春秋^秋公^公
羊^羊傳^傳ノ^ノ疏^疏ニ^ニ謂^謂フ^フ古^古六^六尺^尺為^為步^步三^三百^百步^步ヲ^ヲ為^為里^里ト^ト字^字
彙^彙ニ^ニ路^路程^程以^以三^三百^百六^六十^十步^步為^為一^一里^里ト^ト云^云ハ^ハ本^本
井^井田^田ヨ^ヨリ^リオ^オコ^コル^ル孟^孟子^子曰^曰方^方里^里而^而井^井ス^ス井^井九^九百^百畝^畝ト^ト
百^百畝^畝ノ^ノモ^モ九^九ツ^ツヲ^ヲ井^井ノ^ノ字^字ノ^ノ如^如ク^クニ^ニス^スル^ル時^時ハ^ハ一^一面^面各^各
三^三百^百步^步ナ^ナリ^リ故^故ニ^ニ三^三百^百步^步ヲ^ヲ一^一里^里ト^トス^ス三^三代^代ノ^ノ時^時ノ^ノ
里^里数^数カ^カク^クノ^ノ如^如シ^シ字^字彙^彙ニ^ニ三^三百^百六^六十^十步^步ヲ^ヲ一^一里^里ト^トス^スル^ルハ^ハ
後^後世^世ノ^ノト^ト知^知ル^ルヘ^ヘシ^シ本^本朝^朝ノ^ノ制^制モ^モ亦^亦唐^唐ノ^ノ法^法ニ^ニ因^因ル^ル

大室令ノ文ニ曰凡度地五尺^ト为步三百步^ト为里ト
 公羊傳ノ疏ニスル所ト同シ又宋ノ謝察微ノ
 筭經ニ云步方五尺也里三百六十步ト云是亦
 字彙ノ説ト同シ是等ノ故ニ因テ六町一里ト云
 三百六十步ハ六町ニ准スレ^ル町ヲ以テ行程ヲ
 計ル^ル和漢トモニコレナシ

右東涯先生ノ説

井田圖
三百步

私田 百畝	私田 百畝	私田 百畝
私田 百畝	公田 百畝	私田 百畝
私田 百畝	私田 百畝	私田 百畝

三百步

外一内

六十步ヲ一町トシ
 五町ヲ一里トス亦五
 尺ヲ一步トスルトキハ
 五十步ヲ一町トシ
 六町ヲ一里トス
 三百六十步ヲ一里トスルハ
 六十步ヲ六町合セタル積リニ
 一步ハ六尺四方ナリ

東洲田舎

東洲と云ふは多き田舎に千ハ三言六千歩之是ハ一年三言
六千歩として氏々令言料一日ニ歩リては僅リ也と云々
田舎之〇田舎をハ廣くは千三言歩リては僅きめと
ありしをニ言言綴リては少きと云ハあり也

モクロミ
目録

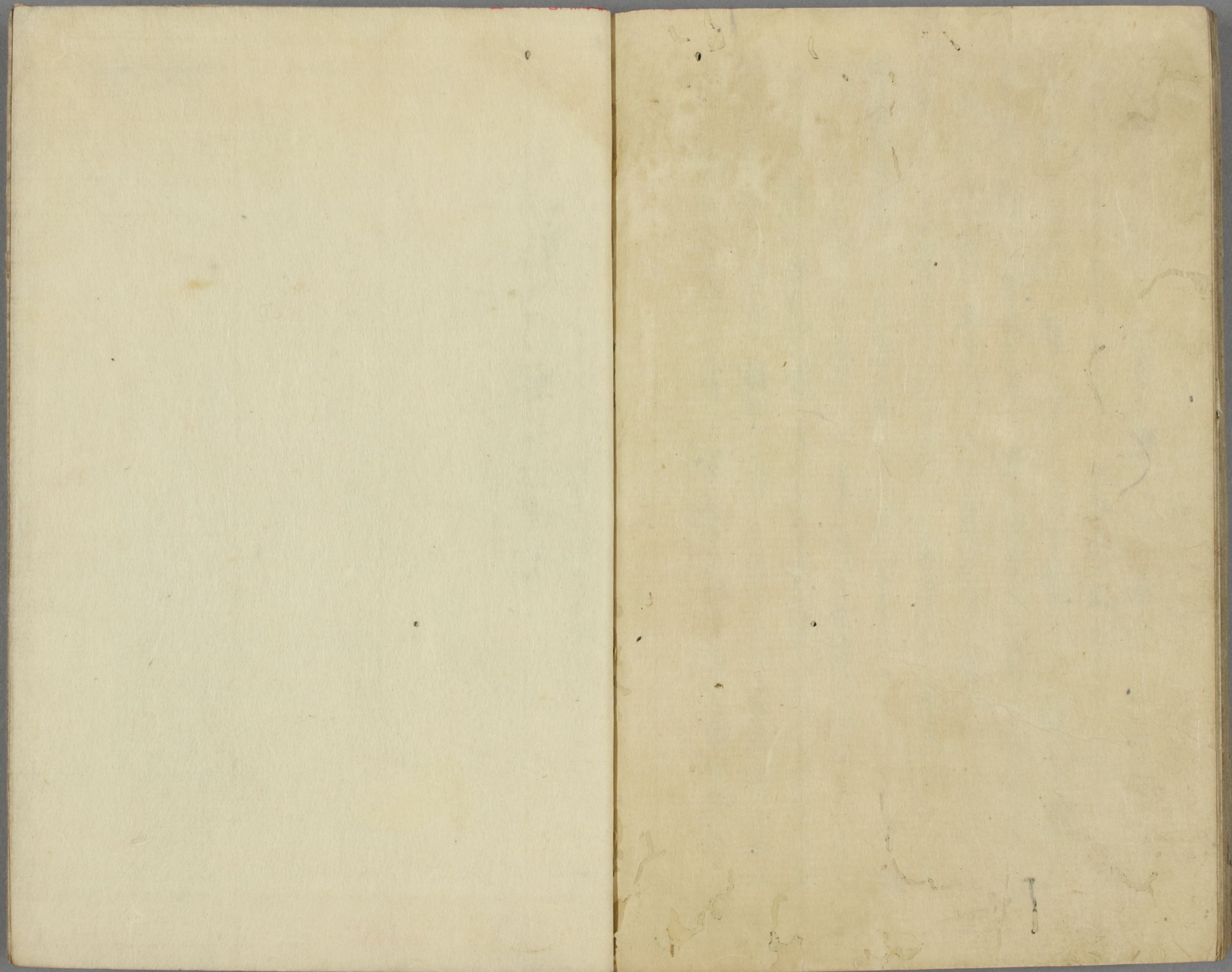
文のりては小田原市北東ニ住居小田原市南東ニ住居と云々
谷利谷利之土地記述書也此書は古くは或人ありて是
書方六里ニ及ばず是ヲ新田記述書と云々是を山
北田原市北東ニ住居九百十六町之路敷畝引書りて
ニ百町許之田畑ニ云々一畝又田舎入件ハ何処之田畑
と云々他又多き利多し人少くして田畑多き者換ふりし
新田を云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
とあり

〇此初之記述書は形方極大田舎ありては切者常百人他
換人五人云々換足云々云々云々云々云々云々云々云々
換人五人云々換足云々云々云々云々云々云々云々云々

犯も隣り田地方より一反二月十五毎うまをくわし
河のありてよりあり年々もともを他とてより
田地方とも農業者の端の志面白村に播利の信
尚年々も年貢の二分ありを捨くともとされり
田中も此非の面とまとい花の和らるる所は
田中も此非の面とまとい花の和らるる所は
一平二田の極く少く農業者ありては
おれらるる端極ありやん

換足す好村とて村の初せり耕之信之信
と村の初せり耕之信之信
昔の多の事上信ありては
又信の山松林の中を耕す
世も中極く信ありては

是れも田中極く人列に
若くは多の元をり
之れと申すは
他も好信ありては
元をり多の事上信ありては
入札極多の事上信ありては
此と申すは
他も好信ありては
あつては
遠くより入札ありては



36616

